

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	23-070	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Differentiating the associations between alcohol use, cigarette smoking, and conditional suicidal behaviors among adolescents 青少年における飲酒、喫煙、条件付き自殺行動との関連性の区別		
執筆者		
Wang M, Qin A, Wei Z, Sun L.		
掲載誌		
J Affect Disord. 2023 Nov 15;341:112-118. doi: 10.1016/j.jad.2023.08.100.		
キーワード		PMID
飲酒、喫煙、自殺念慮、自殺企図、自殺未遂		37634822
要 旨		
<p>目的: 飲酒と喫煙は、ともに自殺行動の危険因子として同定されている。しかし、自殺は念慮から行動まで異なる段階があり、飲酒と喫煙が自殺行動の各過程で異なる役割を果たす可能性が示唆されているが、その関連性についてはまだ報告されていない。この研究では、青少年における飲酒、喫煙と自殺行動の関連性を調査することを目的とする。</p>		
<p>方法: 米国の青少年を対象とした学校ベースの調査である Youth Risk Behavior Survey (YRBS) の 2019 年に実施されたデータを用い、12,487 名を対象とした。自殺行動の異なる状況を区別するために、参加者を自殺行動のない者 (GNS)、企図や未遂のない自殺念慮者 (SINPA)、未遂のない自殺企図者 (SPNA)、自殺未遂者 (SA) に分けた。</p>		
<p>結果: SINPA 群、SPNA 群、SA 群の有病率はそれぞれ 19.4%、15.9%、7.7%であった。GNS 群と比較すると、飲酒と喫煙は SINPA 群 (オッズ比 [OR] = 1.27, P < 0.05; OR = 1.47, P < 0.001)、SPNA 群 (OR = 1.29, P < 0.01; OR = 1.26, P < 0.01)、SA 群 (OR = 1.31, P < 0.01; OR = 2.11, P < 0.001) と関連していた。しかし飲酒は、SA 群において、SINPA 群と SPNA 群をそれぞれ比較とした場合、関連を認めなかったが (OR = 1.05, P > 0.05; OR = 1.03, P > 0.05)、同様の比較において喫煙は関連していた (OR = 1.40, P < 0.01; OR = 1.74, P < 0.001)。</p>		
<p>結論: 飲酒と喫煙はいずれも自殺行動のリスク要因である。しかし、自殺念慮者および自殺企図者にとっては、飲酒の制限はさらなる自殺行動の防止方法としては限定的な可能性があり、喫煙の管理を考慮する必要があることが示唆された。</p>		